ルーマニア月報

平成22年4月9日
在ルーマニア大使館作成

Embassy of Japan in Romania
http://www.ro.emb-japan.go.jp

２０１０年３月号

本月報はルーマニアの報道をもとに、日本大使館がとりまとめたものです。

主要ニュース

【内政】●バセスク大統領は議会政党代表等を大統領府に招き、憲法改正に関する協議を実施。

【外政】●バセスク大統領はカザフスタン、アフガニスタン等を訪問。エネルギー問題等につき協議、アフガニスタンにおけるルーマニア軍の活動がＮＡＴＯの評価を高めている旨発言。

【経済】●対ユーロ為替レートは、４．０６～４．１レイ台で推移。中銀は政策金利を６．５%に引き下げ（3月２９日）。

●新政権の始動本格化に伴いＥＵ基金の使用を巡る動きがやや遅ればせながら活発化の兆し。他方、公的機関の人員整理の問題は当面一進一退の様相。

【我が国との関係】

●バセスク大統領夫妻が日本を公式実務訪問。

●第１４回日本語弁論大会を実施。

●ブカレスト市キューリー夫人小児救急病院及びアルバ県立救急病院の医療機材、アルバ県牧畜農業協同組合の農業機材を整備（草の根・人間安全保障無償資金協力）。

内政

■上院議長罷免要求

・3月3日、与党民主自由党上院議員が、ジョアーナ上院議長（野党社民党所属）の議事運営が上院規則に違反したとして、同議長の罷免を要求。これに対してジョアーナ上院議長は、憲法裁判所の判断等に基づけば、上院議長の罷免は同議長の支持母体である政党がそのような要請を行った場合のみ可能である旨反論。同議長の罷免要求については、与党民主自由党、ハンガリー人民主同盟及び無所属議員グループが賛同し、野党社民党及び国民自由党が反対していたが、3月１７日、民主自由党議員は同議長罷免要求をひとまず撤回。

■野党国民自由党党大会

・3月５－７日、野党国民自由党の党大会が開催。同党党首等の役職選挙が行われた結果、アントネスク同党党首が９８６票を獲得し、３５７票を獲得したオルバン同党第一副議長を破って、国民自由党党首に再選された。また、副議長にはニコライ同党副議長（欧州議員）、ヴォスガニアン同党副議長（元経済・財務大臣）等アントネスク派が再選された。アントネスク党首は、２００８年の議会選挙で好ましい結果を出せなかった同党地方支部の立て直しを図り、２０１２年に予定されている次期議会選挙において３０%の得票率の獲得を目指すこと、民主自由党を駆逐して、国内における唯一の中道右派政党として将来政権を担えるような政党への脱皮を目指したい旨表明。

■社民党の動き

・3月１１日、社民党全国評議会は、ナスターセ同評議会議長（元首相）の再任を決定。

■憲法改正をめぐる動き

・3月１５日、バセスク大統領は議会政党代表及び無

所属議員グループ代表を大統領府に招いて、憲法改正に関する協議を実施。冒頭、バセスク大統領より、今次協議の目的は、国の近代化に対する政治階級の合意を得ることである旨強調。これに対して野党国民自由党、社民党及び保守党代表は、同協議に議会政党を代表しない無所属議員グループ代表が招かれていることに不服の意を表し、同協議を頓挫。また、与党ハンガリー人民主同盟代表からは、憲法改正及び議員数の削減には賛成であるが、二院制は維持すべきとの考えが表明された。野党との協議は１６日も続けられ、同協議終了後、バセスク大統領は、「総じて雰囲気は良く、同協議が各政党間の信頼醸成につながることを期待する。野党も含めた全ての政党が、憲法改正の必要性を認識しており、如何なる内容の改正になるかにかかわらず、昨年行われた国民投票の結果は何らかの形で尊重されなければならないとの認識を有している。」旨表明。

■その他

・３月２３日、下院は国民自由党が提出したチェケ保健大臣の罷免要求単純動議を反対１２４票、賛成９５票、棄権７票で、また、社民党－保守党同盟が提出したシェイタン労働・家族・社会保障大臣の罷免要求単純動議を反対１２１票、賛成１００票、棄権６票でいずれも否決。

・３月２４日、上院本会議は、賛成７０票、反対４０票で、国家汚職対策局によるヴォイク上院議員（社民党所属）の逮捕要求を承認。

外政

■要人往来

・３月１日、バコンスキ外相はギリシャを訪問しパパンドレウ首相兼外相と会見した。バコンスキ外相は、ギリシャの経済再生に関する努力を支持する旨発言した。また、両外相はエネルギー安全保障について協議し、ナブッコ・プロジェクトの実現に向けた意思を確認した。バコンスキ外相は、ギリシャ国内のルーマニア人少数民族に対しルーマニア語の教育を可能にするための二国間協定締結に向けたギリシャ側の前向きな姿勢を歓迎した。

・３月２～３日、バセスク大統領はカザフスタンを訪問し、ナザルバエフ大統領と会見した。ルーマニア大統領府は今次訪問に関して、「ルーマニアにとってカザフスタンは経済面において中央アジアで最も大切なパートナーである。また、カザフスタンにとってルーマニアは欧州市場への入り口である。」とのコミュニケを発出した。両大統領はエネルギー問題を中心に協議し、特に、コンスタンツァ－トリエステ間石油パイプライン計画へのカザフスタンの参加により両国の協力関係を強化することを決定した。ナザルバエフ大統領は、ルーマニアが実行するプロジェクトに対し、ウランの供給を通じて協力すると述べた。

・３月４日、バセスク大統領はアフガニスタンを訪問し同国に駐留中のルーマニア軍を視察した。バセスク大統領は、アフガニスタンに展開するルーマニア軍の英雄的・献身的な行動に対し謝意を表明し、アフガニスタンにおけるルーマニア軍の活動がＮＡＴＯにおけるルーマニアの評価を高めていると述べた。

・３月１８日、バコンスキ外相はアゼルバイジャンを訪問し、アリエフ大統領他と会談した。アリエフ大統領は、ナブッコ・プロジェクト及びコンスタンツァ－トリエステ間パイプライン・プロジェクトへの支持を表明し、さらに、アゼルバイジャンの液化ガスを運搬するためのアゼルバイジャン－グルジア－ルーマニア間の接続についても対話の継続に関心を示した。バコンスキ外相は、ナブッコ・プロジェクトのため安定した天然ガスの供給先を求める欧州委員会の努力を支持すると述べた。

・３月２６日、バセスク大統領は、ブリュッセルにおいてサパテロ・スペイン大統領と会見した。両大統領は、今年中にサパテロ大統領がルーマニアを訪問し両国間の戦略的パートナーシップを締結することに合意した。両大統領はスペイン企業のルーマニアでのイン

フラ・プロジェクトへの参加等を通じて両国間の経済関係を強化する旨合意した。

・3月３０日、バコンスキ外相はグルジアを訪問し、サーカシヴィリ大統領他と会談した。サーカシヴィリ大統領は、ナブッコ・プロジェクトへの支持を再表明し、さらに、アゼルバイジャンの液化ガスを運搬するためのアゼルバイジャンーグルジアールーマニア間の接続についても対話の継続に関心を示した。

■対ＥＵ関係

・3月２３日、欧州委員会はブルガリア及びルーマニアの司法改革・汚職対策等の進捗状況に関する報告書を発表し、ルーマニアに対し、「必要な改革を支援するため、異なる政治的当事者と司法との間で、緊密かつ建設的な協力の確立を国内の重要問題として考慮することを求める。ルーマニアは特に、刑事・民事手続き法の迅速な採択に向けて努力を集中させるべきである。」との見解を提示した。

・3月２６日、バセスク大統領はブリュッセルにて行われた欧州理事会に参加した。同会合では、「欧州２０２０戦略」について協議されたが、バセスク大統領は農業共通政策と結束政策の重要性について結論文書に盛り込むことを主張し、採用された。気候変動についてバセスク大統領は、ポスト京都議定書となる世界的な議定書の締結が必要であり、ＥＵがそれを主導すべきであるとの立場を主張した。

■対モルドバ関係

・3月２３日、バコンスキ外相はルーマニアを訪問中のミジェイ駐モルドバＥＵ特別代表と会見した。ミジェイ特別代表は最近のモルドバ政府による経済改革及び民主化を評価し、バコンスキ外相は欧州委員会の予定しているモルドバへのマクロ経済面での支援を早期に実現することの重要性を強調した。

・3月２４日、コステア外務次官はブリュッセルにて行われた「モルドバ支援国会合」へ出席し、モルドバのＥＵ加盟はモルドバにとってもＥＵにとってもプラスとなりうる旨発言した。また、ルーマニアは先般、２０１０～２０１３年の間にモルドバに対して１億ユーロの支援を行う旨決定したが、さらに２００万ユーロの予算追加を行った旨発表した。

・3月２６日、ボック首相はフィラト・モルドバ首相と会談を行い、両首相は最近の二国間対話におけるダイナミズムに満足の意を表明した。

・3月２９日、バコンスキ外相は、ルーマニアを訪問中のマリウッツァ・モルドバ国防相と会見した。両国の間で空軍軍事協力協定が締結され、また、両国間の軍人教育に関する協力が再開されることについて、両首脳は互いに歓迎の意を表明した。また、沿ドニエストル問題についてＥＵの更なる関与が必要とされていることで意見が一致した。

・3月３０日、バセスク大統領はギンプ・モルドバ大統領代行と電話会談を行い、二国間関係の深化を目指すことで一致した。

経済

■マクロ経済

・3月３日、国家統計局、２００９年のＧＤＰ成長率を－７．２%から－７．１%に微修正。

・3月１８日、ユーロスタットは、ルーマニアの２００９年の貿易赤字は９８億ユーロと発表（輸出２９１億ユーロ、輸入３８９億ユーロ、対前年比では約５７%貿易赤字が縮小）。

・3月２４日、ユーロスタットは２００９年の一人当たりＧＤＰを５，３９０ユーロと発表。ＥＵ２７ヶ国中２番目に低く、過去２０年で対前年比で最大の落ち込みを記録した。

・3月２４日、為替レートが１ユーロ＝４．０７３６レイを記録し１４カ月ぶりに最高値を更新した。

・3月２５日、対ユーロ為替レート、４．０６５３レイで更に高値更新。

・3月２６日、公共財務省、今年最初の２カ月の財政赤字は対ＧＤＰ比１．１%と発表。

■経済危機関連の動き・世界経済

・3月１６日、国立商業登記所、１－２月の２ヶ月間で支払不能に達した企業の数が対前年同期比３５%増の約４，１００社と発表。

・3月３０日、カーンＩＭＦ専務理事、ルーマニアを訪問し、要人との会談の他、ブカレスト経済大学において講演を行った。

・3月３１日、ヴラデスク公共財務相、ＩＭＦ代表団が４月２７－２９日に来訪すると発表。

■ＥＵ関連の動き

・3月４日、公共財務省、ＥＵがこれまでにルーマニアに対して承認したＥＵ基金プロジェクトは合計約４０００件、９０億ユーロに上ると発表。

・3月２２日、ボルベイ環境・森林大臣、環境関連のＥＵ基金につき、本年中に２５億ユーロ、来年に３８億ユーロのプロジェクトに署名したいと発言。

・3月２２日、ドゥミトゥル農業・地方振興大臣、記者会見において、農業分野で１．９億ユーロ、農業以外の地方開発の分野で０．３億ユーロ分の政府保証を農家等に与えるため、予算を計上したと発表。

・3月２５日、ラドゥレスク農業・地方振興省次官、地方開発向けＥＵ基金のうち承認を受けたものが１７０億ユーロあるのに対して実際にプロジェクトが完了したものはわずか1億ユーロ分に留まっていると発表。

・3月３１日、欧州委員会、人材開発プログラム関連のＥＵ基金の支払いにつき、２月に実施した調査を基に一時停止を決定。

■産業界の動向

・3月２日、エネルギー関連公社の二分化統合案につき、原子力発電のオペラトム組合が最終消費者の支払う電気料金が大幅に上昇すると懸念を表明。

・3月２日、ダチア自動車がＳＵＶ新型モデル「ダスター」の価格を発表（ＶＡＴ込みで２輪駆動の１０，５００ユーロモデルから４輪駆動全装備１５，６００ユーロまで）。

・3月２日、ベルリン国際ワイン品評会でヤシ県コトナリ社の「グラサ・デ・コトナリ」が金賞を受賞。

・3月１５日、ダチア自動車の１月の輸出額、対前年同期比で約２００%増加。１ヶ月の生産台数としては過去５年で最大だが、国内での販売は低調。

・3月１８日、ボック首相とチェケ保健相、製薬会社「ヤシ抗生物質」を訪問。同社を中心とする国営製薬会社の設立を検討。

・3月２９日、ジアル・フィナンツィアル紙の報道によるとデンマーク、墺、独等の外国企業による農業用の土地買収が最近活発化している（外資系企業の保有する土地は累積で１０万ヘクタールに上ると同紙は推算）。

■投資関連動向

・3月１日、在ルーマニア・スイス大使が、ルーマニアの社会安定化やＮＧＯ支援等のため、１．２億ユーロの無償資金援助を行う用意があることを表明。

・3月１日、在ルーマニア・ノルウェー大使はボルベイ環境・森林大臣と会見し、環境関連経済支援を拡大すると発言。

・3月４日、独プレミアム・エアロテック社は、ブラショフのヘリコプター工場ＩＡＲギンバフ社が有する土地に関する賃貸契約を締結した。プレミアム・アエロテック社は、約4億5，０００万ユーロを投資してエアバスの部品を製造する工場を開設する予定。

・3月４日、欧州委員会は４３のエネルギー関連プロジェクトへの資金拠出を決定。そのうち４件がルーマニアが関係するものであった。同4件にはナブッコ・プロジェクトへの2億ユーロ拠出、ハンガリーやブルガリアとルーマニアを結ぶガスパイプラインの改修等が含まれる。

・3月１９日、香港経済貿易代表部とルーマニア経済省が貿易セミナーをブカレストにおいて共催。

・3月２３日、ロヴィナリ火力発電所は、中国電工設備総公司が同発電所に新しい発電施設を建設するため１０億ユーロを投資する可能性があると発表。

・3月３０日、フォード自動車、２００７－２００８年にクライオーバ工場向けに輸入したギアボックスに対して支払った３５０万米ドルの関税の返還を求めて国を提訴。

■財政政策

・3月４日、公共財務省、3億6，８９０万レイ分（９０億ユーロ相当）の中期国債を発行（満期5年、金利７．０８%）。

・3月５日、バセスク大統領は、公務員給与や年金の支払いのために国債が過剰に発行されていると内閣を非難する発言を行った。

・3月８日、公共財務省、１３億7，０００万レイ分（３．３億ユーロ相当）の短期国債を発行（満期6ヶ月、金利6．７３%）。

・3月１７～１８日、ボック内閣、ヤシで閣議を開催。ブカレスト外で閣議を開催するのは歴史上2度目であり、モルドバ地方の開発について意見交換が行われた。

・3月１７日、ヤシで開催中の閣議において、３５歳以下の若手によって起業された中小企業に対する税制上の優遇措置について議論された（ボック首相は、本件について定めた法案に改訂が加えられた後、閣議で承認される見込みと発表した）。

・3月１８日、3月4回目となる国債発行（総額5億レイ、満期3年、金利6．６３%）。２０１０年第1四半期で合計１００億レイ分の国債を発行予定。

・3月２２日、公共財務省、1月末時点のルーマニアの公的債務は1，４３９億レイで対ＧＤＰ比２６．7%と発表（２００９年末時点では同２９．９２%）。

・4月1日、公共財務省、4月中に総額４５億レイの国債を発行する予定と発表。

■公共政策等

・3月１７日、アジェルプレス通信はフィロン仏外相が近くルーマニアを訪問し、フランスがルーマニアにおける新規原子力発電所の建設に参加する旨発表する可能性があると報じた。

・3月１９日、バセスク大統領、２００９年7月に締結されたナブッコ・プロジェクトに関する多国間協定の批准法公布令に署名。

・3月２６日、独系のエネルギー会社エーオン社、エネルギー規制局（ＡＮＲＥ）がガスと電気の消費者料金引き上げを承認しなければ、従業員１７００人程度を整理する可能性があると発表。

・3月２７日、全国２７都市の公的機関等の建物において、１時間消灯し気候変動の認識を高める「アースアワー２０１０」キャンペーンが実施された。

・3月３１日、ベルチャーヌ運輸・社会基盤大臣、国際民間航空機関（ＩＣＡＯ）によって、3月２９日－４月１日にモントリオールで行われる「民間航空安全ハイレベル会議」の議長に選出される。

■金融政策

・3月２９日、中央銀行、政策金利を７．０%から史上最低水準の６．５%に引き下げを決定（2月に7．５%から７．０%への引き下げが行われていた）。

■労働・年金問題等

・3月８日、雇用局、２月の失業率は８．３%と発表（県別で高い順では、メヘディンツィ県１２．４%、ドルジ県１１．５%、アルバ県１１．３%）。

・3月８日、国鉄（ＣＦＲ）が、従業員６４，０００人のうち１０，３０１人の解雇を実施。

・3月１７日、メトロレックス（地下鉄公団）、運輸省との交渉の結果、賃金引き上げ最大１０%を獲得し、予告していたストライキの実施は回避された。

・3月２２日、ブザウ市において教員組合のデモが行われた。全国教員労働組合によれば、タリチャーヌ政権時代に政府が決定した教員給与の５０%引き上げが実施されていないとして、これまでに１７５，０００人が国を相手に訴訟を起こしている。ブザウでは５０%増の給与を県教委が1月から支給したが、２月には全額が支給されなくなっていた。

・3月２３日、イルフォヴ県、ジュルジュ県等の農業従事者が、未払いとなっている２００９年の補助金の支払いやディーゼル燃料の農家に対する減額等を求め農業省の前で抗議デモを実施。

・3月２６日、全国年金生活者連盟のメンバー約２００人が、年金算出基準や政府が検討中の医療費の自己負担分導入に対する不満を理由に抗議デモを実施。

・4月１日、ブカレスト交通公団が予告抜きストを実施。１６時間後、オプレスク市長が賃上げ要求を承認。

・4月１日、国鉄（ＣＦＲ）、職員７８０人を解雇（旅客部門で今月末までに合計2，０３０人解雇を予定）。

・4月２日、ファミリー・ドクター組合、各診療所への健康保険局からの割当金の減額を不満としてストライキを実施。

■格付け（4月８日付）

（内はアウトルック）

Fitch	外貨建長期（国債）	ＢＢ＋（安）
	内貨建長期	ＢＢＢ－
Standard & Poors	外貨建長期	ＢＢ＋（安）
	内貨建長期	ＢＢＢ－（安）
Moody's	外貨建長期	Ｂａａ３（安）
	内貨建長期	Ｂａａ３
JCR	外貨建長期	ＢＢＢ－（ネガ）
	内貨建長期	ＢＢＢ（ネガ）

我が国との関係

■バセスク大統領夫妻の日本公式実務訪問

・3月９～１１日、バセスク大統領夫妻は日本を公式実務訪問した。滞在中、天皇皇后両陛下と御会見したほか、鳩山総理との首脳会談を実施。二国間関係、国際場裡における協力及び国際情勢につき意見交換を行った。また、首脳会談後、両首脳立ち会いのもと、ブカレスト国際空港アクセス鉄道建設計画に対する日本の円借款供与に関する交換公文等署名式が行われた。

■第１４回日本語弁論大会の開催

・3月１４日、ルーマニア日本語教師会及び日本大使館の共催（助成：国際交流基金、協力：ルーマニア日本人会、ルーマニア商工会、日本人学校、ＪＡＬウィ

ーン支店、ＺＥＮ寿司）により、ルーマニアで日本語を学ぶ学生を対象に第１４回日本語弁論大会が開催された（於：ブカレスト大学中央図書館講堂）。今年は「私にとっての日本」というテーマで２５名の参加者が一生懸命に日本語でのスピーチに挑戦した。長年ルーマニアにおいて開催されている弁論大会はルーマニアの日本語学習者にとって1年に1回の全国規模の大会であり、日々の日本語学習者の刺激になっている。

■草の根・人間の安全保障無償資金協力

・3月１6日、ブカレストにあるキュリー夫人小児救急病院において「草の根・人間の安全保障無償資金協力」G／C(贈与契約書)署名式が行われた。約6万3，０００万ユーロの資金が日本政府により同病院に供与され、手術室の医療機材が整備されることとなった。同病院は年間約2万7，０００人の患者が来院する全国でも有数の小児専門病院であるが、３０年以上前の老朽化した機材を使用していることが問題となっていた。

・3月２４日、アルバユリア市において「草の根・人間の安全保障無償資金協力」G／C(贈与契約書)署名式が行われた。これにより、アルバ県立救急病院及びアルバ県牧畜農業協同組合の２団体がそれぞれ約7万ユーロの資金を日本政府により供与されることとなった。アルバ県立救急病院では脳神経外科手術室の機材不足により緊急手術の受け入れが不可能なケースがたびたびあったが、今般、手術用顕微鏡等の医療機材が整備されることとなり、同県の医療環境の向上が見込まれている。また、アルバ県は牧畜の盛んな土地であるが、共産主義体制の崩壊とそれに伴う集団農場の解体により耕されなくなった牧草地で荒廃が進んでおり、日本政府の資金により同地の農協にトラクター等の機材が整備され、酪農振興に役立つことが期待されている。